

吹田市総合計画審議会・第1部会（地域別計画・第3回）

開催日時 平成17年11月21日（月）午後6時30分～午後7時30分

開催場所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

議事内容 1. 吹田市第3次総合計画基本計画（地域別計画）〔案〕について

（1）審議会での意見を受けての修正案の検討

2. その他

出席者（委員） 浜岡政好 衛藤照夫 三輪信哉 神保義博 豊田 稔 鮫島 匡

前田武男 山口克也 尾高榮次 西岡昌佐子 大下達哉（欠席3名）

（事務局） 清野助役 山中企画部長 岸次長 池田総括参事 宝田参事 稲田主査

岡松係員

（傍聴人） 2名

議事要旨

1. 吹田市第3次総合計画基本計画（地域別計画）〔案〕について

（1）審議会での意見を受けての修正案の検討

（事務局）

（配付資料 資料－39～45の説明）

（部会長）

前回までの2回の審議において、いくつか修正を頂くことになっていた。事務局の方で修正されたものが提案されている。これについて質問や意見を頂きたいと思う。今日は包括的に検討するので、いろいろ気が付いたところについて意見を頂きたいと思う。

（A委員）

私の意見というよりも、いろいろ皆さんに聞いたことを紹介したい。「豊津・南吹田地域」の地域名に「江坂」という名称を入れるかどうかという話があり、私は前回入れる方に賛成した。それは「江坂」というものが見えないことが、良くないのではないかと思ったからである。しかし、昔のことをよく知っている方に言わせると、「明治22年に町村制が施行された時に、「榎坂」と「垂水」が一つになった。そして全く新しい「豊津村」が生まれたので、いまさら「豊津」という名前と「江坂」を並べるのはおかしいのではないか。「榎坂」も「垂水」も水運の便利な地にあり、豊かな港という意味で、新しくそれを「豊津村」と命名した。そのような歴史から考えるとおかしいのではないか。」ということを言われた。歴史だけを考えるとその通りだと思ってしまったのである。意見を訂正する気はないが、そのような意味では、全く新しい意味での「江坂」を今回は入れたという理解をしている。

(B委員)

「豊かな港の「豊津」という話があったが、先日「江坂」のある宮司から話を聞いた。「豊島」と書いて「てしま」という地名があった。その「豊島」の「豊」を取り、その港で「津」を取り、「豊津」となったと聞いている。その名残で「豊島」の中央で「豊中」となり、豊中市の地名が残っているという説明であった。少し不確かなもので恐縮であるが、そのようなネーミングだったと聞いた。

(部会長)

「江坂」という名称を地域名として入れることについては、提案通りでいいのか。

(B委員)

「江坂」がどこに入っているのかわからないと不便だと思うので、入れて頂いた方がありがたい。

(部会長)

「江坂」を入れるという名称問題はもういいか。

(C委員)

「豊津・南吹田地域」と長年称していた地域であり、今回は重要な改正をしていると思う。このような形で3つを並列して入れることについて異存はない。ただ、異存はないがゆえに聞きたいと思う。地域名を「山手・片山・岸部地域」としてはどうかという問題提起をした時、一部の委員には、地域の3分の1が山手であり、そのまま名称として入れないことは不思議であると同調して頂いたので、今回修正が有ると期待してこの審議に出席したが、(資料-39)の「審議会での意見を踏まえた〔案〕の修正について」には、「特に修正しない。」とだけ記載されている。その理由だけ、はっきりしておきたい。

(事務局)

それについては、地域がどのような形になっているのかをみた。中学校区では、片山中学校区と第二中学校区の二つの地域にわかれている。連合自治会では、「山手」「片山」「千一」「岸部」の4つになる。民生児童委員では、「山手」「千一」「岸部」となっている。地域の方としては、「山手」「片山」「千一」「岸部」の4つで考えると、自分の地域がはっきりとわかるが、「山手」を入れると「千一」がどうかという危惧が出てくる。中学校区では2つしかない。JR以南と同じように19年間「片山・岸部地域」としてきたこともあるので、この地域については「片山・岸部地域」としたいということである。

(C委員)

それは事務局がそうしたいと思っただけである。私は今までの審議会において、「豊津・南吹田地域」に「江坂」を入れる歴史的背景、地理的背景に異議を言っているわけでない。「片山」に「千一」地区が含まれているので、「千一」まで地域名として並列してほしいとは言っていない。それは、当然「千一」地区は「片山」地区という形で歴史的にもうなずかれているからである。ただ

「山手」については、この地域の3分の1を占める「山手」地区として現存している。ましてやJR社宅も「片山」の名称になっているが、本来は山手小学校における「山手」地区になる。つまり、これらのことを考えた場合、「山手・片山・岸部地域」とすることが順当であるという意見を述べた。事務局が出している結論は、私は納得できる説明ではないので、さらに説明をお願いする。

(事務局)

もう一つ事務局の考え方としては、昔の「大字」という呼び名がある。「山手」地区を含めて「片山」という大字名がある。それもふまえ、あえて「山手」を入れると混乱を招くので「片山・岸部地域」という従来からの名称を提案させて頂いた。

(C委員)

やはり納得できない。大字でも小字でも歴史観からみても、山手1丁目から4丁目、あるいはJR社宅を含む一部片山町2丁目は、校区で考えると山手小学校校区である。そのような状況の中で、「山手」をなぜ入れなければいけないのかと固守される。先ほどの「豊津・江坂・南吹田地域」では、なぜ「江坂」を入れたのかとなる。「豊津・江坂・南吹田地域」の名称変更については全く異存はない。しかし、仮にこれが吹田市の本会議等で「豊津・南吹田地域」の地名変更が審議会です承され、なぜ「山手」は審議されなかったのかとなった場合、本会議ではどのような論議をされるのか。

(部会長)

片一方は変えて片一方はそのままであることを訊かれた時に、今の説明で納得ができるかどうかということである。他の委員の意見も少し聞かせて頂きたい。

(D委員)

もし「山手・片山・岸部地域」と3つの地区名をつけた場合、「山手」に関して、「岸部」や「片山」とまちづくりの理念やあり方等の違いが明確に出てくる部分はあるのか。「山手」と「片山」は確かに呼び方としては違った形であるが、まちの形として「山手」と「片山」は違ったものであるが、「山手」を違った形でまちづくりのあり方を考えなければならぬという議論は今までであったのかということが少し気になった。

(部会長)

「山手」をあまり分けては考えられていない。いろいろと議論が出てきているが、「片山」地区のJR社宅をどうするのかという議論は出ている。

(D委員)

そのような意味では、今回「江坂」が入ってきたことは、今A委員が話したことと同じであるが、新しい「江坂」が生まれてきたから入れたという考え方だと思う。そのような意味では、新しい「山手」が生まれてきたから入れたというわけではないのであれば、どちらにすべきかについては、今までの資料や議論が積み重ねられた上での話であるので難しい点はある。「江坂」のケ

ースとこのケースは違うということは言えるのではないかと思う。

(C委員)

そのような論議になると、また話を前段に戻さなければおかしくなる。「江坂」が降って沸いたように新しいまちが形成されたわけではない。私たちは、ずっとこの30年来、「豊津」の中に「江坂」が含まれているという概念でいたことも事実である。「豊津町」と言うと「江坂」もあり、江坂駅も「豊津」であるという概念で来た。私は4つにしようというような乱暴な地域名を考えているわけではない。「豊津・南吹田地域」と長年親しまれてきたこの区域編成の中で、今回新しく当審議会が新しく発展してきた「江坂」を入れて3つにしようということに関して私は全てを妥協している。何の反論もしていない。反論していないがゆえに、なぜ「山手」という3分の1を占める地域に、3つの名前で、「山手・片山・岸部地域」としないのか。何も「千一」を入れてほしいとは一言も言っていない。このことを納得がいくように今整理しなければならない。

(部会長)

他にこのような名称に新しくしてほしいという議論は出ていないのか。

(事務局)

名称の点で市民意見を頂いたのは、「JR以南地域」で、「(仮称)」とあったので意見を頂いた。後は「豊津・南吹田地域」で「江坂」をぜひ入れてほしいという市民意見があった。それ以外は市民意見では出ていない。

(部会長)

「千里山・佐井寺」など他の地域についても出ていないのか。

(事務局)

「千里山・佐井寺地域」あるいは「山田・千里丘地域」では、地域を分けるべきであるという意見はあった。名称については出ていない。

(部会長)

C委員、地域からも入れた方がいいという意見か。

(C委員)

「入れてほしいという声はどこからも聞いていなかった」という言い方は少し乱暴すぎる。それでは入れるように署名運動でもするのか。「江坂」では署名運動でもあったのか。入れる、入れないという判断については、行政が決めた地域名はずっと変えないつもりできたという行政意識で判断されるのか。「山手」も独立させてほしい」という強い意向があったので、今の「山手」の連合自治会ができたわけである。当時は「片山」の連合自治会と一緒にされていた。しかし、「山手」の世帯数も人口も増えてきたので、昭和60年代に「山手」の連合自治会ができた。「江坂」を入れ、その論議であれば「山手」もどうかということで問題提起したのである。

(A委員)

やはり何でこの名前を決めるのかについて、価値判断の軸のようなものがあると思う。「JR以南」については随分論争があり、もっと違う歴史的な名前がいいのではないかという意見もあった。これについても浜屋敷の方でいろいろ皆さんに聞くと、「何ということ言うのか」と言われ、「変える必要はない」と言われた。それがどのような理由かについては、「歴史的な意味合いがあるものの名前をきちんと付けるのであればいい。どうしても付けるのであれば、「旧吹田村」しかない」という言い方だった。「旧吹田村」にすると「旧吹田村」だけではないので、今に合わない気がする。そのようにすると結局何を基準にして「変えない」と言っているのかについては、一つはずっと言い伝えられ、使い慣らされて皆がよく知っているからという軸が一つ出てきた。そして今、C委員の意見としては、「山手」という地区は非常に大きな部分を占めているのではないか。地域の3分の1も占めているところを何故無視して名前を入れないのか」という議論がある。前回単に3分の1と聞いた時には、3分の1もあるのであれば入れた方がいいのではないかと思った。ところが歴史伝統の軸と今まで皆が使い、慣れ親しんできているという軸など、その辺を判断してどのようにするのかということだと思う。だから事務局が今言ったのは、ずっとこのような名前呼び表しているのだから、これで変えない方がいいのではないかということだと思う。そして3分の1の大きさについては、どのように判断するのかわかるが、私は、大きさだけでは「今までなぜ言ってこなかったのか。」ということになるので、もう一つ新しい理由が何か必要かと思う。それが「この地域をどんどん育てていこう。「山手」地区をもっと育てるのだ。」という気持ちが皆さんに強くあるならば、自然とそのような名前になってくるのではないかと思う。

(部会長)

他に何かあるか。これは決着が付かないので、しばらく保留にしておき、他のところの議論を少ししながら、もう少し時間が経ち、またいろいろなアイデア等が出たところでもう一度再開したいと思う。

(E委員)

今地名のところでいろいろ意見が出ているが、先ほどの事務局から、「JR以南地域」という名称は、昭和61年から使っているのだからこれを変えないでいくという説明であったように思う。今A委員からも、この地域の人はこのままでいいという意見もあったということをお話された。夏の市民の意見を聞く会では、「JR以南」だけ他の地域と比べて、何か十把一からげの地域であり、軽く扱われているのではないかという意見も出ていた。歴史的にずっと使われているため、それでもやむを得ないのではないかという気も一方ではするが、先ほどの事務局からの「古くから使われているので、このままの名称にする。」という説明だけでは、この地域は納得がいかないのではないか。

(B委員)

19年ぐらいでは、全然古くない。

(E委員)

即これでいくというのではなく、もう少し検討をして頂きたいという思いを持っている。

(部会長)

行政計画の地域名として単に行政が付けた記号という段階から、段々住民自身が自分達の地域として受け止めてきて、そこに不都合などいろいろと思いを込める段階まで来たというように捉えるといいと思う。本来は、もう一度住民のところで「我々が地域の名称はこれでいいか。」というように盛り上がったところで決めることができるといい。この問題については、どのようにするかはしばらく保留しておく。修正箇所等でこれまで議論したところが、この表現では十分にうまく反映されていない、これまでのところでは気が付かなかったが、改めて見直すとこのようにした方がいいというようなことなどを含め、今日が最後の部会であるので、意見を願います。

特に無いようである。では今保留にしておいた「片山・岸部地域」の名称をどのようにするかについて何かあるか。

(C委員)

審議会として、「JR以南」を含めて当然論議の対象になるだろう地域名である。その時に一つ一つ個別に当然論議されていくと思う。その時に「江坂」はいいが、「山手」を入れることについては相成らないと言う。

(部会長)

ここで一応審議会としての判断をしなければならない。

(C委員)

助役はどのように考えているのか。助役の意向を聞き、私自身の意見は終わりにしたいと思う。

(事務局)

「江坂」については先ほど他の委員からの指摘もあったように、江坂駅周辺は、吹田の中でも商業の集積地域であるが、そこに住宅が共にあるという特異な場所である。非常に独特のまちづくりをこれまでも展開しており、今後もそのような可能性がある地域であるので、今回「江坂」を地域名に加えることについては、加えた方がいいと事務局としての判断をさせて頂いた。「片山・岸部地域」については、確かに「山手」地区に住まいの方にとっては、とても愛着のある地域であり、そこが「片山・岸部地域」という形で地域名が埋もれてしまうということについては、おそらくいろいろと異論はあるのではないかと思う。しかし、「まちづくり」ということから考えると、他の地域とことさらに違うように、今後発展していくというよりは、むしろ吹田市の他の地域と同じような形態で発展していくのではないかと考え、「山手」を入れることについては、今回は見送りたいと事務局として判断させて頂いた。先ほど部会長も言われたが、今回地域別計画を立てることは初めての試みで、この計画が本当に地域の中に浸透し、皆さんと一緒に地域のまちづくりを進めていく中で、「私達の地域はこのような名前呼びたい。このような名前にしてほしい」という市民の方々の声が出た段階で、新たに検討したい。確かに今のブロック割り、名称のどちらにしても、どちらかと言えば行政の都合でつくったものである。今回の地域別計画が生

きた計画として動いてきた時には、地域の皆さんの意見を聞いた上で、より良い名前を付けて頂くという展望を込め、今回は事務局が提案させて頂いているように了解頂ければ大変ありがたいと考えているので、よろしく願います。

(C委員)

私の意見は参考に留めておいて、今後の論議のベースにして頂ければ幸いである。

(部会長)

名称問題は一応これで決着が付いた。他の問題については、先ほどからほとんど意見が出ないが、これでいいか。無いようであるので、本日はこれで終了する。

以 上